

入試情報

グローバル化や技術革新が進み、社会で求められる力が変化しています。これからの時代においては、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」が重要になり、「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使っているか」によりよい人生を送るかが重要となってきます。こうした考えのもとに養う力が「学力の三要素」、すなわち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」です。これらの力をバランスよく育成するために、学習指導要領が改訂されました。大学入試でもこの三要素をバランスよく評価することが求められており、その一環として、今回の入試制度改革

となりました。

① 大学入学共通テスト

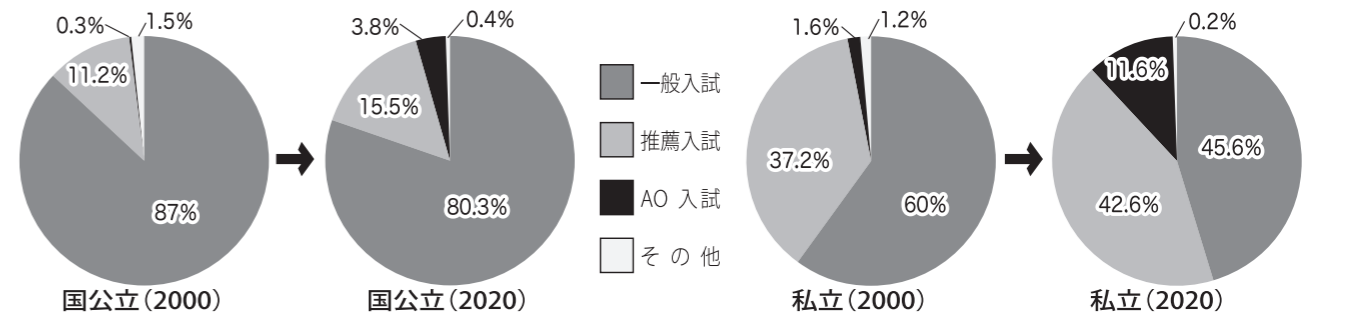
「大学入試センター試験」が廃止され、「大学入学共通テスト」がスタートします。当初計画されていた英語民間試験や記述式問題の導入については延期が発表され、解答方法はセンター試験と同じマーク式のみとなりました。しかし、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ・数学A」の試験時間は、センター試験において60分であったものが、共通テスト見直し前の70分のままとなっていますし、英語は、センター試験では筆記・200点、リスニング・50点であったものが、リーディング・100点、リスニング・100点に配点が変わります（ただし、配点の比率は大

② 入試区分の名称変更と現状

昨年度まで、一般入試・AO入試・推薦入試という三つの区分がありました。令和三（二〇二一）年度入試からは、**一般選抜・総合選抜・学校推薦型選抜**という名称となりました。

近年の大学入試は、多様化しています。昨年度入試と平成十二（二〇〇〇）年度入試を比較すると、入試区分別の割合は、下記グラフのようになります。推薦・AO入試の割合の増加が顕著です。学力のほかに、思考力・判断力・表現力なども含めて「多面的・総合的に評価」し、多様な資質を持った入学者を受け入れる

ための制度として、今後この傾向は、継続するものと思われれます。例えば、国立大学協会では、総合型・学校推薦型選抜の入学者を現在の15%台から、30%に引き上げる目標を掲げています。また、一般入試の定員数を減らし、総合型・学校推薦型選抜に振り向ける難関私大もあります。



総合型・学校推薦型選抜は、受験生にとって、受験機会を増やし、現役合格の可能性を高める有力な選択肢です。志望理由を突き詰める中で、より目的意識が強まり、一般入試を乗り切る学力も付きます。しかし、教科の学力試験が中心の**一般選抜とは質が大きく異なる**という点には注意が必要です。これまでのAO入試では、学力試験を課さない大学も多かったのですが、今回の改革で、従来あった**「原則として学力検査を免除」という文言が削除**され、小論文、プレゼンテーション、教科科目に係るテスト、大学入学共通テスト等のうち、いずれかを活用することが必須とされました。国立や一部の私大では、評定や面接、志望理由書に加えて、小論文やプレゼンテーションを通して、「大学で学ぶ学力があるか」「大学で何を学びたいか」「将来へのビジョン」「これまでの経験で得たもの（結果より過程が重視されます）」などが具体的に問われます。

和歌山大学観光学部 AO 入試 (昨年度)

出願期間 8/1～8/6 選考日 2次9/14 3次10/19
合格発表 9/4 9/26 10/25
成績基準 3.5以上
英検2級、TOEIC500点、TOEFL-iBT52点、GTEC4技能840点以上等いずれかの有資格者
1次=書類審査
入学志願書 (1)600字 (2)1200字 (3)600字 調査書
2次=模擬講義・面接
3次=プレゼンテーション(事前に設定したテーマについて)

和歌山大学教育学部推薦入試 (昨年度)

出願期間 1/6～1/8 選考日 2/1 合格発表 2/9
書類審査 推薦書 志望理由書(1000字程度) 調査書
面接(集団討論および個別面接) 300点
センター試験 200点

和歌山大学の場合は、右記のようになっています。

クラブ活動はもちろん、シンポジウムなど校外のイベントにも積極的に参加するなど、高校生活を通して様々な事にチャレンジしたことが自身の強みとなりました。明確な目的意識を持ち努力を続ける意志、様々な事に挑戦する前向きな意欲、そうしたものが求められます。

本校で、推薦で国立大学に合格した生徒の一人は、二年生の時に志望校を決め、三年の一学期から朝四時に起きて、自身が学びたい学問に関する知識や将来就職したい業界に関する情報などについて学んでから登校し、帰ってからは受験勉強に取り組みしていました。面接練習の際、根拠を示した明確な受け答えをしていたことは、非常に印象に残っています。また、別の生徒は、

③ 入試科目

国立の場合、共通テストと国立二次試験の配点は、大学によって異なります。

2次試験の配点が高いパターン 大阪大学 歯 前期			共通テストのみ利用するパターン 東京都立大学 人文社会 人文後期			特定科目の配点が高いパターン 山口大学 理 数理科学 後期			共通テストが3教科のパターン 滋賀大学 経済 前期A		
共通テスト		2次試験	共通テスト		2次試験	共通テスト		2次試験	共通テスト		2次試験
100	外国語	300	300	外国語		100	外国語		200	外国語	200
100	数学	300	200	数学		500	数学	1000	※100	数学	
100	国語		200	国語		100	国語		200	国語	200
100	理科	300	100	理科		200	理科			理科	
50	地歴・公民		200	地歴・公民		100	地歴・公民		※100	地歴・公民	
	面接	300		調査書等	10		面接			面接	

入試科目や配点によって、受験対策も変わってきますし、お子様の強みを生かす(或いは弱点を避ける)こともできます。広く全国に目を向け、様々な大学を知ることが、生徒自身の可能性を広げ、将来について深く考えることにつながります。各大学の入試科目・配点は、七月に「入学者選抜実施要項」として発表されます。志望校の入試科目や配点、共通テスト・二次試験の配点比率などはきちんと押さえるよう指導していただきます。

なかには二教科や一教科で受験できる大学もあります。受験生にとっての負担は減りますが、その分、志願者が集中し、高倍率になります。早い段階から勉強する科目を絞ってしまうと、志望校選択の幅を狭めてしまうことにもなるため、科目の絞り込みすぎには注意が必要です。

④ 保護者の皆様へ

最後に、保護者の皆様へのお願があります。お子様と進路について、話をする機会をつくってください。学校では、定期的に進路について考える機会を設けています。お子様は、保護者の方が思っているより、進路について考えていますし、悩んでもいます。機会をみつけて、お子様の今の考えを聞いてください。

尚、本年度進学状況はHPに掲載しております。

